磐城新聞

(十三日夕刊)
休刊 大祭日第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料 一行五十錢(指定廿錢增)
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五八四番

町村會議員選擧取締事項(三) 其の協定內容

選擧運動方法

一、何人と雖も投票を得若くは得しめ又は得しめざるの目的にて
(イ)戸別訪問すること
(ロ)連續して個々の選擧人に對し面接すること
(ハ)電話に依り選擧運動をする事以上は堅く禁せられ嚴罰に處せらるゝを以てこれ等の違反行爲は絶對になさゞること

二、議員候補者、選擧運動員が宣言書、依賴書、演說會案內書等を郵送せずして直接選擧人に配布するは戸別訪問又は個々面接となる虞ありこれをなさゞる事
但し名刺以外の文書圖畫を純然たる機械的勞務者を以て配布するはこの限りにあらず

三、饗應接待の名を避けんがため選擧人又は運動員より小額の費用を徵し、その不足額を候補者(運動員亦同じ)が負擔し慰勞會、祝賀會、懇親會等を開催したる場合はその名義の如何に拘らず饗應接待し又はその饗應接待を受けたるものとして違反となること

四、選擧人及選擧運動員に對しその關係ある社寺、學校、會社、組合市町村等に對する用水、小作、債權寄附その他殊の直接利害關係を利用して誘導し又はその誘導に應じ若くはこれを促したるときは違反となること

五、演說又は新聞、雜誌引札、張り札その他何等の方法を以てするを問はず當選を得又は得しむる目的を以て議員候補者の身分職業又は經歷に關し虛僞の事實を公にし若くは當選を得しめざるの目的を以て議員候補者に對し虛僞の事項を公にするが如き行爲は違反となること(事實の有無に拘らず刑法の名譽毀損罪を構成することあり)

六、選擧に關し腕章、徽章、襷の類を附しその他異樣の扮裝をなし或は隊伍を組み若くは鳴り物又は旗幟等を用ひて往々する等氣勢を張るが如き行爲は違反となる場合多きこと

七、選擧運動に用ふる自動車、人力車、自轉車等には旗幟その他の標識推薦狀宣言文等を記載せる布紙類を綴付し衆目をひくべき趣向をなすは違反となる事

八、選擧運動のためにする運行車輛數は自轉車にありてはこれを認めず自動車人力車にありては二臺までとすること

九、暴行又は威力を用ひ他候補者及運動員の運動行爲を阻害し若くはこれを拐引するが如き行爲は違反となること

一〇、交通若くは集會を妨げ又は演說を妨害しその他偽計詐術等不正の方法を以て選擧の自由を妨害する行爲は違反となること

一一、他の議員候補者の選擧運動を妨ぐる目的を以て演說會場の借切をなすは違反となること

一二、選擧に關し鐵砲、刀劍、こん棒その他人を殺傷するに足るべき物件を携帶したるものは違反となること

一三、推薦承諾の捺印を求むる行爲は選擧運動とみられ易き虞あるは勿論個々面接行爲に陷り易きを以てこれをなさゞること

一四、多衆の者が集合して候補者推薦の協議をなすは個々面接となる虞多きを以て注意すること

一五、慰勞會、祝賀會、懇親會等の集會を利用し選擧に關する事項を論議するは違反となる恐れあり注意すること

一六、議員候補者及選擧運動員は投票當日みだりに投票所附近に停立徘徊せざること

一七、新聞紙上或はその他の方法にたいて議員候補者の豫選投票をなし又は募集する行爲は選擧の自由公正を阻害するは勿論違反(明治四十二年八月內務省令第二〇號違反)となること

一八、演說會開催に當り所謂「狩出し」と稱し有權者の各戸別を訪問し聽取方を勸誘する行爲はその狀況に依り法第九十八條に禁じたる戸別訪問に依る運動と混同し紛らはしきを以て一切なさゞること

一九、地盤擁護又は夜警と稱し選擧人に對し見張り人又は監視人の類を置かざること

二〇、みだりに他議員候補者の運動員に追隨せざること

歌壇近事(上)

本田水穗

新興短歌といふ言葉が、このごろちよい\/聞こえるので、さう云ふ人達の標榜する作品をしらべて見たのだが、一向短歌らしいものになつてゐない。短句また短文といふべきもので主觀を貫く感動が無いちよつと見ると感動らしく見えるであるが感動では無く陰慘な言葉を綴つたノートブック風な語錄であるそれが直觀的な語錄ででもあればまた相應な面白味が無いではないが、何といふか、先づゐて思案の結果になつたたど\/しい語錄の一綴りは眼に痛い。これはまさに眼界を暗く狹めないでも新興短歌の世を持ち來すことが出來はしないかと思ふ。その人達は階級文學といふことを强調するのだと言ふだらうがこの意識が强ければ强いほど現はれる作品は短歌藝術の價値を減殺してしまふ。げんに歌が語錄になつてしまつてゐる思案また思考と名づくべき短歌な語錄であつて詩の本領とすべき直觀も無ければ感動も無いのはどうしたのだらう。それを强ひて短歌の標榜の中に入れようとするのが解釋に苦しむ。歌といふやうな舊觀念などは振り落して生活線とか無產派とか勇敢に進出したらばよいと思ふのであるが、そこになほ一脈の未練をのこしてゐるところにこの新興短歌の未來の弱點を露顯してゐる。

歌史を見れば一目瞭然たる如く短歌は上古に於てあらゆる階級を通じた感動の吐露であつた中ごろ貴族の領するところとなつたが近古近世、現代と推し移つて徐々に平民の聲となつて現はれて來てゐる。短歌の約束に從つて勞働の苦痛も無產の哀嘆も歌ひ得るのである。短歌の約束に從ふかぎりに於てその作品は短歌であるのであつてそれ以外すべては短歌から拒まれるのが當然であらうでは無いか。况や舊觀念の一切を抹殺しようとする階級文學の人々である。何を苦しんで舊觀念の殘垢であるところの「短歌」といふ名に戀々の俤を措からうとするのであらう。諸君の如き潔癖家は先づその「名」から正してかゝるのが當然であるべきではないか。近世の俳人たちは「うた」といふ舊風の名に俳諧を惜氣も無く棄捨して句、發句等の名をもつて當時の文壇に進出してゐるのである。諸君が新興短歌など云ふ中途半端な名に執着するのは、その作品の實質に「詩」を缺いてゐるが爲めに辛うじて此の「名」に於て埋め合せしようとするであるがゝりはしないか、左樣な推測を拒むだけの理由があるであらうか、あらば聞き度いものである。

明日の吉凶　舊曆二月四日　新曆三月十四日

▲一白 人の上に立てば一倍の勞苦を身に覺る日▲二黑 上下に計り一致せし所により活動すべし▲三碧 殺伐の氣を押さへ口を愼めば何事にも吉▲四綠 進めば勇氣充つれば矢玉の雨も恐るに足らず▲五黃 必定まり內整へば出來事は憂ふるに及ばず▲六白 實直にはげめば豫期以上の發展を得らるべし▲七赤 盲進には危險伴ふ運びは遲くとも徐々が吉▲八白 條理正しく細事の爲に方針をまぐべからず▲九紫 長堤も蟻の一小穴より潰ゆることあり注意

講談 幕末 [illegible]

(182) 渡邊默禪作　宮野歌春畫

雪江の手紙は血である、其の疵ばかり血でない、其筆の一字一句が悉く血の叫であつた。

急ぎ申上候、いぬる日御許さまと行安寺にてお目もじの折細々御相談申上候事……なつ所の道了とやらに立聞され、昨日佛の御回向に參り合せ候を幸ひ、二人の者に殘らず告口いたし候ものと相見え、二人よりわもじへ色々の難題申し懸け究命申し付けるとの事にて奧の物置藏へ理不盡に押込め食事一切差止め候て餓死をのみ待ち居り候やうに存じられ候、責殺され候は覺悟の上にたはし候へ共餘りに邪けん非道の仕打にて怨めしく\/も口惜く存じ候、死ぬる此身は露いとい不申只々一日も早く御取さばきの上、惡人共を追ひはらひ無事御歸參遊ばされ候樣それのみ神かけ念じ上候、何卒此の者へお返しごと玉はりたく待ち申上候、

兄上樣　あら\/かしこ　雪

讀み了らぬに勘太郎の手がふるへて來た。聽てめじりがきらりと昂つて、瞳から凄い光が閃めくと呼吸が迫つてはッはッと喘ぐ。尋常ならぬ顏の色は樂天主義の清吉にも物恐ろしくみて取られた。

「清吉々々」

と急しく叫んで

「ふ、ふ、不都合千萬な奴だ、鬼、鬼だッ、ち、畜生ッ、ど、どうしてやらう」

と睨みつける、清吉はたぢ\/と逡巡して

「若旦那、私が何を爲ました、私に何か不都合なことがあるんですか」

「うむ、うむ!」

「唸つて如何するんです、食着いちやア不可ませんよ若旦那」

「な、情ないッと科もないお雪を……こ、こんな目に……嘸ぞ雪が口惜しいだらうなア、ア、道理だ\/」

今度はぼろり\/と落涙した

「いやだなア、そう\/若旦那を狂人にして了つた。確乎なさいましよ通る人が見て笑てるぢやありませんか」

「笑ひたい人は笑ふがいゝ是が泣かずにゐられはしない、ア殘念だッ」

勘太郎は一時物狂はしくなるまでに感情が激したのである、それが次第におちついて來ると了得に清吉の手前体裁惡くなつて

「コレ清吉、此の手紙を見ちやア、返事を書いてゐる暇も惜しくなつた。否書いてゐる暇で一刻も早く妹を救ひ出す工夫をしなければならないから、お前は直ぐ戻つて妹にそう云つて與れ是から木曾の叔父さんの所へ出掛けて事情を話して大急ぎで實家へ押掛けて貰つて、二人に嚴談の上に土藏から出してやるやうに叔父さんに骨を折らせるから、決して心配せずに口惜しいのを怺へて待つてゐろ、遲くとも今日の正午までには屹と漕ぎつけるからと、ないいか、そう言傳をして呉れ」と氣が氣で無さゝう

「だけども若旦那返つて直とた孃さまに申し上げる譯には參りませんや、其の手紙もみんなが寢てから、こつそり拔出して土藏の窓下へ梯子を架けてやつと受取つて來たくらゐですもの」

「何、構ひはしない、公然にそう言つて與れ」

廣告

平町南町 大和田醫院 電話一二九番

文部大臣認可 藤田女學校入學案內

一、本科 一年 五十名
二、裁縫專修科 同 百名
三、師範科 同 五十名
四、專攻科 同 二十名

一、本科一年 (高等二年卒業若シクハ之レト全等以上ノ學力ヲ有スルモノ)
二、裁縫專修科一年 (尋常小學卒業若シクハ之レト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ)
三、師範科
(1)本校本科ヲ卒業シタルモノ若シクハ之レト同等以上ノ學力アリト認メタルモノ
(2)高等女學校及實科高等女學校ヲ卒業シタルモノ
(3)專門學校入學者檢定規定ニ依ル試驗檢定合格者
(4)專門學校入學者檢定規定ニ依ル指定ヲ受ケタルモノ
四、專攻科
(1)本校本科或ハ裁縫專修科ヲ卒業シタルモノ若シクハ之レト全等以上ノ學力アリト認メタルモノ
(2)高等女學校及實科高等女學校ヲ卒業シタルモノ
(3)專門學校入學者檢定規定ニ依ル試驗檢定合格者
(4)專門學校入學者檢定規定ニ依ル指定ヲ受ケタルモノ
(5)本校ニ於テ相當ト認メタル裁縫技藝學校卒業者

右各科共入學ヲ許ス志願者ハ本校規定在學證書ニ適當記入捺印ノ上(書式不明ノ者ハ書面ニテ)三月三十日迄ニ平町藤田女學校ニ提出シナサイ
◎定員超過ノ際ハ在學證書提出ノ順ニ採用シマス
◎詳細ハ本校宛學則請求ナサイ(通信料二錢封入)
◎本校姉妹校タル在湯本町藤田女學校並ニ江名町藤田女學校學則ハ別ニ之レヲ定メテアリマス、其校希望生ハ其旨明記シテ下サイ

昭和四年三月
文部大臣認可 藤田女學校 (福島縣平町 電話三八番)

平町紺屋町 吉田眼科醫院

確實敏捷は㊅の生命なり
和洋銅鐵金物問屋 ㊅ 釜屋商店 諸橋久太郎
電話九番・一三九番 振替貯金口座東京一〇九五六番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目 磐城セメント株式會社特約代理店

高級車貸切
開店披露
自動車御用ハ 電話三四三番(サシミ)
平驛前 昭和タクシー 澤正路

夜間診療
胃腸 專門 (十二指腸虫病) 內科部
梅毒 專門 (淋病 婦人病 皮膚病) 外科部
松村胃腸性病科醫院 (平南町電話一〇七番)

三益玉炭のお奬め
三井物產會社ガ多年ノ研究ノ結果專賣持許ヲ得タ最モ文化的ノ木炭代用ノ高級燃料デス
□無煙無臭デ、火付ガ早ク火持チ良ク、火力ガ强ク日常ノにやきニハコンナ便利ナ品ハアリマセン
□ソレデ値段ハ大變お安ク木炭ノ三分ノ一デ充分間ニ合ヒマス
□ドンナニ嗆はすきらいノ人でも一度使ヘバ必ズ御氣ニ召スノガ此ノ玉炭ノ特長デス
値段ハ 個數ハ約八百個內外 壹箱金貳圓
御申越次第見本ヲ持參シテ御覽ニ供シマスカラ御申越下サイ
平驛前 阿部石炭商店 電話二三七番

營業種目
內地材 材木各種、羽柄材各種 建築諸材請負 礦山用坑木其他諸材請負
外材部 米松、米杉、大角製材調達請負 其他
㊉ 佐藤材木店 常磐線平町新川町 電話三三五番

內臟外科 外科一般 花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町大通り 安齋外科醫院 電話四三六番

內科 小兒科 其他一般 (入院隨時)
前田醫院 植田町本町(電話一二四番) 前田清美

小名濱の測候所 近く愈々昇格

雨は雨ご豫報出來る 地方漁民の喜び

石城郡小名濱町福島測候所小名濱支所は濱通りに於ける觀測の唯一の機關であるからと云ふので支所を本所にする昇格運動が起き

昇格も漸く具体化して來たが支所は觀測を正式に發表する事ができず常に福島の本所に於て發表してゐるのであるが、福島を中心にした中通方部と小名濱を中心とした濱通り方部とは氣候が非常にちがひ福島方部は大陸性的であるのに反して濱通りは海洋的で温度等にも大差があり福島が大雪の際に濱通り方部が雨であつたり晴天であつたりするので福島からの發表を信じて漁業家等がとんでもない馬鹿を見ることがある由、天候と重大密接な關係をもつてゐる漁業家のためにも海岸方部は海岸方部としての觀測を發表せねばならずそれには支所を本所を昇格するの必要があると云ふので此昇格運動が起きたのであるが濱通りでは本縣は勿論、茨城、宮城兩縣にも測候所がないので同支所の昇格を濱通り方部では非常に期待してゐる

木炭生産增

濱三の二月分

濱三郡木炭同業組合に於ける二月中の檢査濟木炭製産高は石城郡七萬一千九百五十三俵双葉郡六萬四千六百二十九俵相馬郡二萬九千九百三十四俵計十六萬六千五百十六俵となるが昨年同月の十四萬四千四百七十七俵に比して二萬二千三十九俵の增である

强調もホンの一時 米價逆戻る

舊正月も明けて更らに 石城農村の窮狀

石城郡地方の米價は昨秋以來著るしく軟調を呈し今春に入りて一層低落の狀況をなり政府の對策とも稱すべき買替の施設も何等の功を奏せすために農村方面の經濟事情は非常に沈衰するに至つたが舊正月即ち二月中旬においては出穀不足の關係から一時的にもせよや〻强調を呈したけれどその後全く固着して見送り一方となつてゐる市內にたいての正米取引は至つて不活潑といふより外に言葉なく相場の如きも標準米の四等は二十六圓を示し從つて白米の小賣値段は一貫目につき一等米が八十七錢にてこゝ二ケ月ばかり保合つてゐる有樣だが農村方面の資金逼迫から來る農民の悲鳴は聞くさへ氣の毒である

學級增加と 新入學生

昇格した平商校

平町立平商業學校は一般の希望が入れられ昭和五年度から五學年制度甲種商業學校に昇格することに決定した事は既報の如くであるが同校は現在三學年制なので學級の增加と入學生について此の程關係者が協議會を開いて審議の結果昭和五年の新學期から開始する第四學年には三學年から進級生並に本正度卒業生、前期卒業生中からの希望者から五十名を募集して就業せしむることゝ決定した

石城の「酒庫」の誇

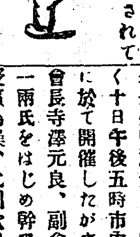
望みは『小錦』と『白馬の雪』

覆面子

平稅務署管內の酒造業は岡部署長以下當局の熱心な指導と當業者の自覺により近年著るしき向上發展を示し舊來劣惡酒の標本の如く傳へられた石城産の清酒が茲々數年來一躍聲價を高め、本縣清酒品評會に於ては勿論東北六縣に於ける此の種の對比審査に於て常に確信ある成績を收めつゝある事は斯業界の爲め喜ぶべきである、殊に高久村神谷作鈴木喜太郎氏の吟釀に係る銘酒「小錦」は平稅務署管內、石城酒造組合主催の唎酒品評會に於て四ヶ年連續

優等の桂冠を得、然かも出品六點の「小錦」悉くが揃つて首位を占めたのを初め、平窪村辰之口松本德一氏吟釀の銘酒「白馬の雪」も近年めき〳〵と實質的の向上を示して來た、此の二個の進出は斯界異數の向上にして直接指導の任に當る岡部署長並に畑永間稅課長の[illegible]像に難からぬものがある、今年度酒造も既に終りを告げ四月中旬に開かれる唎酒品評會に於て果して如何なる成果を收め得るかは

蓋し此の「小錦」と「白馬の雪」の二個に期待される處極めて多いが小錦白馬、雪本舖とも或る種の自信と期待とを以て今年は更らに一段の力を注いだ模樣である、即ち「小錦」は釀造主鈴木喜太郎氏長息鈴木喜平氏が獨得の技術と經驗とによつて緊褌の努力を揮つたほか仙臺稅務監督局の小池技師が實地に指導を試[illegible]一氏は酒造の本場秋田から特に優秀なる技術と經驗に富む杜氏以下の從業員を招聘して萬事に當らしめた如く兩者その何れも學術と經驗の粹を採用してウンと力瘤を入れた今年の生産品の出來榮は稅務署當局は勿論斯業者の重大な注目を惹いてゐる因に高久村の「小錦」本舖鈴木喜太郎氏は現に同村々長の榮職にあり酒造は磐中そつ業後釀造試驗場に於て技術を鍛錬した長息喜平氏が脇目も觸れず熱心研究の所産であるはら第一線に立つて販路の擴張と營業政策の確立に寢食を忘れる低の勵ち一家打ち揃つた分業的の責任が遂ひに此の大成を見るに至つたもので世人の豫想する如く此の小錦が來るべき今年の唎酒會に於ても優等の榮冠を穫ち得たならば事實上平稅務署の特選酒として全國的に覇を競ふ檜舞臺に送る事が出來るであらうと期待されてゐる



來月廿日前後を 早くも梅の準備

東部電では廣告燈 平町花の前景氣

平町松ヶ岡公園の櫻は每年四月二十四、五日頃が滿開となり新川畔を埋むる花のトンネルと相玆むで平町の春を飾る唯一の呼び物となり郡山、常陸方面よりの觀櫻客で每年花時前後十日間は非常な賑ひを呈すの例で東部電力平營業所では平町役場と共力し每年櫻花時の松ヶ岡と新川畔に廣告の常夜燈を設け大いに花氣分を煽つて來たが今年も愈々花の季節となつたので東部電では今月末から廣告燈の募集を開始し昨年に優る大々的に賑かならしむる筈であると

石城各炭礦

山神祭

花の四月中旬

常磐七大炭礦たる入山、磐城、大日本、大倉、福島、古河、小田各炭礦では例年行はるゝ五月の山神祭がも雨季にあたり折角の期待を裏切らるゝより協議の結果四月十五十六日の櫻花期に觀櫻の意味も加味して執行する事を申合せ既に寄々餘興その他の準備に會社及從業員の双方にたいて着手してゐるが永らく沈滯してゐた炭界も最近幾分活況に向ひつゝある折柄全山共に近年になく賑ひを呈する事と今から期待されてゐる

元田議長辭職

昨夜十一時提出

(東京電話)元田衆議院議長は十二日午後十一時三十五分院內大臣室に田中首相を訪問し辭表を提出した

平署の劍道

五十名の昇級

平署演武場に施行された劍道の階級試驗は敎士小川文章氏外鈴木忠正、室直與兩精錬證によつて本縣に初めて去十日他方試驗を行はれたものであるが成績非常によく受驗者は級に於て鈴木庄五郎(磐崎)外廿九名初段小松彌八(湯本十)三名二段我孫子六之助(內郷)外三名三段吉野柳吉(同)外一名の合計五十名で大部分昇級の見込をよせられてゐる

惡い夫婦

旅先で踏倒し

平町字才槌小路旅人宿市川モト(五三)は田村郡瀧根村大字神俣根本米治(五六)を相手取り十二日平署に詐欺の告訴を提起したが根本は本年十月十日市川方の內縁の妻大塚サクと三十日投宿し宿料を支拂はず行衛をくらまし、其後も始終請求に應じないので告訴したものである

公賣公告

石城郡田人村黑田字別當五十貳番地
滯納者　田岡　朝重
右鑛業代理人
石城郡植田町
綠川德次郎
福島縣採掘登錄　第參參貳號
福島縣石城郡田人村上遠野村地內
石炭鑛區六拾九萬八千坪
採掘鑛業權
右國稅滯納ニツキ前記財産昭和四年三月廿三日午前十時平稅務署ニ於テ前記財産入札ノ方法ニヨリ公賣ニ付ス詳細ハ當署ニ就キ承合ノ上入札ヲ爲スベシ
昭和四年三月十二日
平稅務署長

戯曲 大越中佐の死(三)

小崎武

少佐　あそこにも、味方の兵がたほれて居るな(左手で敬禮して)尊い犧牲だ(よろめきながら中央白揚の根株の處へ歸つて來る)(軍刀を杖に突つ立つてゐるもの〻顏は蒼白く色ざめ呼吸は荒く亂れてゐる)

少佐　(腕の傷を見て)痛む……血が噴き出る。……殘念だが一休みして行かう(白揚の根株の上に崩れるやうに腰を下ろし、軍刀の柄頭に左手の上に右手を重ねて托して、頭を下げてほつと一息つく)(しかし間もなく心身共に衰へ右手をよ〻へて軍刀の柄頭から離れ、がくりと上體が前へ傾くと横倒れにすべり倒れて、根株によりか〻つたま〻氣を失つてしまう)(永き間舞臺うす暗くなる)(下手の高梁茂みをかき分けて濱島一等卒が銃を杖に佝ひ出て來る。左の耳の上を負傷して血がべつとり附いてゐる。輕傷である。濱島は茂みの前に突つ立つてあたりを見廻す)

濱島　日がすつかり暮れたな。さい前此處でぐわんとやられて、(左手で頭の傷に觸れて見て)氣絕してたほれてゐたのだな。それにしても此の地點は何處だらう。(考へながら中央へ進み出る)

——立ち止まつて右左と見て、たほれたる大越少佐に氣づいて驚く)

濱島　誰だ?(じつと見て)あつ、第二大隊長殿だ大越少佐殿だ(馳け寄つて少佐を抱き起こす)

——(少佐は眼を閉ぢ堅く口を結んだま〻未だに人心[illegible]かずにゐる)

濱島　大越少佐殿、大越少佐殿。

(呼べど答へなきにうなづき、左手で腰の水筒を探つてサックより脫づし少佐の唇に押しつけ右手で口を割るやうにして水筒を傾くればおのづと少佐は水をごくりと一口飮む)

濱島　(少佐の耳もとに口を寄せて)大越少佐殿、大越少佐殿

少佐　(眼を見開く)

濱島　(悅んで)お、大越少佐殿、お氣がつきになりましたか。

少佐　(じつと濱島の顏を見て)わしを知つて居るお前は誰ぢや。

濱島　はい、第一大隊の傳令兵濱島一等卒であります。

少佐　お〻、うちの聯隊ぢやつたか。どうして今頃此邊に

濱島　はい、聯隊から旅團司令部へ連絡に行つて歸りに、此處でやられましたので……

少佐　では、さいぜんからすこに倒れてゐたのはお前だつたのか

濱島　はい、一時氣絕して居りましたが氣がついて見ると少佐殿がたほれて居られたので、吃驚しましたわ、それよりも、その御負傷を今御手當てします。

(上衣の裾裏から三角巾とガーゼの包を取出し、手早く少佐の腕の傷の手當てをして、しつかと繃帶する)

少佐　(元氣を恢復して根株に腰をかけ)有難う、お蔭で大變樂になつた。お前の負傷は……お、頭ではないか。早く手當てをしては。

濱島　いゝえ、私のは一寸した擦過傷です。當り處が惡かつた爲に氣絕したのですからもう大丈夫です。御心配下さいますな。しかし少佐殿には護衛兵もつれずとどうなさつたのですか

少佐　いや、わしは旅團長閣下の許へ報告に行く途中だ。從卒をつれて居つたが此處でやられた。今のさき敵砲彈のために即死した(濱島驚く、少佐は左後方高梁の茂みを顧みて)屍骸はあすこにある。わしの腕も其時一緒にやられたのぢや。殘念なことをした(顏を反けてにじみ出る淚を左の手の甲で拭ふ)

濱島　さうでありますか(悲痛の思ひ入れあり背伸びして山口一等卒の屍骸に向ひ敬禮する)

神谷式の新文字

平銀を辭してから

平町春のユーモア

平銀行の神谷さんで通つた神谷辰五郎さんは平銀行の看板が常磐平支店と書替へられると同時に職を退き古鍛冶町の自宅に所謂晴耕雨讀の閑日月を送つてゐるが、さて帳簿と分れ十呂盤と離れて見るとと何とはなしの退窟さから色々と考へ拔いた揚句、之れは一つ偉大な新發見をして世界の奴輩をアッと云はせるは何がよからうと思案の末漢字は餘りに六かしすぎ西歐文字はヤヤッコシすぎるによつて更に簡易な世界的容易に共通普及の出來る新体文字を編み出そうと神谷さん一世一代の智慧を絞つてゐるとは嘘の樣な眞實の話。

土砂の下敷き

石城郡四倉町新町土工鈴木國太郎(三三)は十二日午前九時ころ同町字志津地內に於て土砂取作業中突然三坪程の土砂の下敷となり壓死した

石城各地駒糶

石城郡內の駒糶市日取は左の如く決定した出馬約千頭の見込である

澤渡村中寺三月三十日より四月三日迄、上遠野村上遠野町同五日より八日迄、田人村黑田同十日より十二日迄

郡江名町漁夫松本榮作(三七)は去る十日平町字南町小松屋旅館鈴木シヅ方に投宿々料を踏倒した上宿屋の寢卷を着たまゝ逃走行衛をくらましたので平署に屆出でたので同署で嚴探中

磐城鄉友會

福島在住の人々が在福磐城鄉友會の佐藤福島署長榮轉祝賀會は既報の如く十日午後五時市內中央亭に於て開催したが來會者は會長寺澤元良、副會長大原一兩氏をはじめ幹事高商敎授濱島操、北川次男、田子健吉、惠澤仭氏をはじめ古和口福島民報社營業主任をはじめ十數名、定刻寺澤會長の挨拶あつて宴に移り北裡美妓連の酒間斡旋あり鄉黨の喜びを共にし午後八時過ぎ盛況裡に散會した

自動車學校

平に開校準備

平町尼子臺自動車店主吉田直之助氏は自動車の長足な發展に鑑み豫て自動車學校を設立すべく認可申請中の處認可あつたので同町舊小學校舍を拂下げ開校する事に決し專ら準備中である

機械を種に

被害者が訴へる

石城郡好間村大字中好間木田藤一は郡山市大町伊藤清吉(五〇)を相手取り平署に十二日詐欺の告訴をした、理由は木田は同郡赤井村羽賀音吉方から依賴されて稻扱機械の販賣をなし本年一月中伊藤は羽賀から依賴されたと稱し木田から六十餘圓を詐欺したといふのである

藤沼醫院

市川右太衛門、高堂國典、巴蝶子、中村政子
道中戀慕調　酒井忠輔　全九卷
身は大名に生れ酒井忠温公御三男酒井忠輔は束縛された生活から離れる自由放浪の生活を續けてゐる救ふたるものは僞りの者である土地の親分の家に寄宿して出入に强劍をふるい再び城中に形式もつてなる忠輔の一生こそ

渡邊篤、瀧田靜枝、岡田宗太郎、武田春郎
異戀戯曲　戀を拾つた男　全七卷
里見靜江は美人ですそして明るい性格　自動車のドライブは鮮かな近代的女性であります木崎充介は彼女に戀してゐましたが駄目です無男の荻原隆吉戀を拾ふ迄は篤獨得の苦がある

河部五郎、高瀨實、南部章三、市川小文治
秘史　原田甲斐　全十三卷
葛木香一、常盤操子、實川延一郎、中山介二郎
史實をもつて村上浪六氏が筆執せる畢六ヶ年古今甲斐の好巨を知りて忠臣を知らず伊達家の柱石としての原田甲斐が極惡の人と世に傳へられし其の史實を今說き改めん

土日曜　料金　學生デー　普通
平館　電四六六

產婆看護婦　生徒募集
修業の年限產婆看護婦通ジテ滿一ケ年
願書四月八日限リ(可成至急提出)
平町一丁目
石城產科婦看護婦學校
電話三五七

生徒募集
本科第一部(高等二年卒業若クハ之レト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ但シ本科第二部ノ卒業生ハ特ニ第二學年ニ編入ス)
本科第二部(尋常小學校六年卒業若クハ之レト同等以上ノ學力アルモノ)
技藝高等科(高等小學校卒業若クハ之レト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ但シ高等小學校ヲ卒業シ相當ニ裁縫ノ素養アル者ハ詮衡ノ上二年ニ編入ス)
技藝專攻科(本校各科卒業生　高等女學校及實科高等女學校ヲ卒業シタルモノ專門學校入學檢定ニ依ル試驗檢定合格者)
本校寄宿舍ハ共同自炊ニ付極メテ低廉食費一日貳拾五六錢
◎四月四日午前十時入學式擧行
◎學則請求ノ方ハ郵劵二錢封入ノコト
文部大臣認可　平陽女學校
福島縣平町　電話四四五番

電球特賣
スターガス入　瓦斯入　半消電球(一等品)
特價
二〇ワット
三〇同
四〇同　二十錢均一
六〇同
一〇〇同　三十五錢
マツダランプをしのぐスターガス入球特用第一至急御試用を願ます
平三　大谷時計病院　電話十九番